

はくぶつかんの部屋 16

秋の特別展「近代沖縄と宜野湾」によせて



秋の青空の下に一面に広がる畑の中を、南北にのびる松の並木に囲まれた道が続いています。木々の枝におおわれた道は心地よい日陰となり、木々のすき間から木もれ日が差し込んでいます。その道には収穫期を迎えているサツマイモをバークに入れて頭にのせて運んでいる人が忙しそうに歩いています。また屋敷林に囲まれたカヤぶきや赤瓦ぶきの集落が、こぢんまりと固まっている様子も見えます。今の宜野湾市の姿からは想像もつかない風景が、戦前には広がっていました。

一八七九（明治一二）年、沖縄県が設置され琉球王国は消滅しました。沖縄の近代の始まりです。近代という時代区分は、一九四五（昭和二〇）年の太平洋戦争終結までを指しますが、日本のあらゆるものが大きく変化した時代で、宜野湾でも多くのものが変わりました。間切番所は間切役場を経て村役場となりました。小学校がつくられて、近代的教育が始まりました。針突（ハツツ）やカカシラなどの琉球王国時代の古い習慣は消えて行き、洋服を着ている人が見られるようになりました。交通が整備され自動車や軽便鉄道が走るようになりました。近代は新しい文化を

もたらし、人々の生活が発展しましたが、国を挙げての戦争に人々を巻き込んでいった時代でもありました。市立博物館では、このような激動の時代であった近代をとりあげた秋の特別展「近代沖縄と宜野湾」を開催します。明治・大正・昭和初期という近代のあゆみをたどることで、地元の歴史を知ってもらい、将来の宜野湾を考えるきっかけになればと思います。多くの方々のご来場、心よりお待ちしております。



▶戦前、国の天然記念物にも指定された宜野湾並松（普天間）

秋の特別展

「近代沖縄と宜野湾」

■期 間：10月30日（水）～

12月8日（日）

■場 所：市立博物館

■入場料：無料

【お問合せ】市立博物館 ☎870-9317

茶ぐわーゆんたく

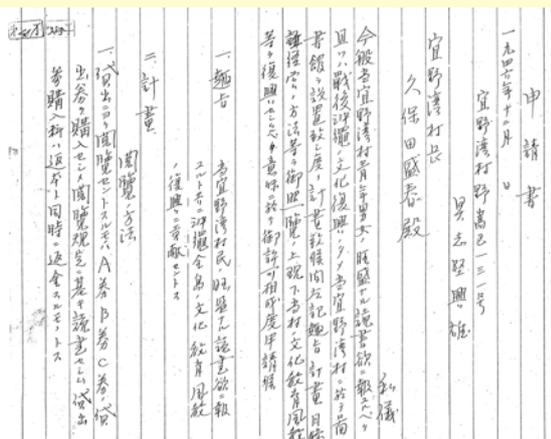
114

復興としての読書

当教育委員会文化課が所蔵する戦後初期行政文書群に、「申請書」なる史料が確認できます。「申請書」は、1946（昭和21）年12月当時、本市野嵩に在住していた具志堅興雄氏によって作成されたもので、「当宜野湾村民ノ旺盛ナル読書欲ニ報ユルト共ニ、沖縄全島ノ文化教育風教ノ復興ニ貢献セントス」（読点は引用者）といった趣旨に基づき、宜野湾村（当時）に図書館を設置するよう村長宛に提出されています。

戦後の混乱期における復興としての読書ということ、2013年の、沖縄社会が置かれている今日的な状況の中に置き換えてみた場合、私たちは今、読書を通じてどのような「復興」を描くことができるのでしょうか。

（文責 清水史彦）



▶1946年12月「申請書」

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係（市立博物館内）

☎870-9317